

St. Luke's International University Repository

創刊のことば

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日野, 原重明 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/54

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



創刊の言葉

副学長 日野原 重明

看護教育の長い歴史を持つ聖路加看護大学が、研究業績集としての紀要をここに創刊できるようになったことは、関係者の非常な喜びである。

聖路加国際病院の附属施設として大正9年（1920年）に発足した高等看護婦学校が、財団法人として昭和2年（1927年）に聖路加女子専門学校に発展し、第二次世界大戦前は、本学は日本における看護教育の最高機関として指導的な看護婦の養成をしてきたのである。戦後は昭和29年に3年制短期大学として立ち直り、更に専攻科をこれに設置し、実質的に4年の大学教育を行なってきたが、昭和39年（1964年）には名実共に4年制の看護大学に発展したのである。

大学の卒業生を中心として行なわれた聖路加国際病院での臨床看護は、日本の看護界では、看護の最も高い水準を示すものとして、高く評価されてきた。高い知性と技術に併せて、キリストにより示された愛の心をもって病む人への看護を行なうナースを本学で養成し、立ち遅れた日本の看護のレベルを高めるための指導者をつくることを目指してこの大学は今日まで努力してきたわけである。

本学の前身を合わせると、過去50年余の長い看護教育の歴史の上に、今後何を積み重ねるべきかが、ここ2～3年の間、われわれに問われてきたのであるが、看護大学の今後の道を歩む心構えとして、もっと看護の業の科学性と技術を基礎づける研究と修練が、教職の1人びとりに必要であることをわれわれは痛感するようになったのである。

今日までに、教職の中の多くのものは、何らかの研究業績を外に発表してきたが、もっとその内容をわれわれの努力によって充実させ、そして大学内にあるお互いがそれぞれの研究や教育的工夫をもっと知り合うと共に、本学の同窓生や本学に関心をもたれる学外の方々に、これらを紹介することを希ってこの研究紀要を毎年刊行することになった次第である。

教職による過去の業績はこれを目録で示すにとどめ、一々それらを再発表する労を避けた。今後本学の関係者による看護や、これに関連する関連諸科学や、教養的科目の研究内容や、本学に於ける教育上の諸問題を、本誌に毎年掲載し発表するつもりである。本学にとって大切な教育と研究のエッセンスと、本学に特有な大学精神とが、今後本誌に掲載されることを望んでやまない次第である。